

佐保会兵庫県支部だより

第 35 号

佐保会兵庫県支部事務局

神戸市西区伊川谷町潤和1425-15
〒651-2124 TEL・FAX078-975-0063



平城京朱雀門 赤川範子(S28理家)

思い出

内山美智子(S20理)

昨年、加西のフラワーセンターを訪ねる様の会に参加して、伊丹の都築さんから声をかけられ、一挙に思い出が甦った。

大連より奈良女子高等師範学校へ入学された津野先生は、当時佐保会理事長の長谷川先生とクラスメートの御縁もあってか、兵庫県支部長を引き受けられ、私に事務局をとのお誘いがあった。佐保会に少しでも御恩返しできればとお引き受けした。翌日、郷先生と菊地先生が出納簿などの入った風呂敷包みを持って来宅。昭和五十七年のことである。

県内に散在する会員の交流が深まるようにと支部だよりの発行を企画し、何度も姫路へ足を運んだ。香川先生、伊賀先生を中心に、多くの方々の御努力で第一号は産声をあげ、各地区をつないで現在に到っている。支部だよりのために集い、会員同士の交わりが始まったとお声を伺い、思わず口元がほころぶ。

支部だよりが刷り上がると、地区リーダーの方々と共に折りたたみ、手配りをしていた。お昼に用意した土鍋のおでんがお口にあつたのか、その頃お手伝い下さった都築さんから、レシビをとのお便りを頂き、恐縮しながらお返事したのを思い出す。大先輩の近藤先生は「若い方とお話できるのが楽しい」とニコニコしながらキャリカーを引っぱって須磨地区を配って下さった。三木の竹崎先生とは三宮駅の改札を出た所でバトンタッチをして、リュックでお持ち帰り頂いた。枚挙に暇がないほど皆様方のご協力を得て支部だよりをお手元に届けることができたのだ。

一方、神戸市社会教育課のお勧めもあり、社会への還元のため、佐保婦人学級を開催し、高齢者の暮らしについて学ぶ。会員外の方も公募し、今もお年賀を下さる方がある。又、若い人との交流を深めるため、若草の会を立ち上げた。毎日の暮らしに役立つ衣食住の情報や実技を学びつつ、交流にも努めた。丁度その頃、ネパール支援活動をなさり、講師をして下さった北川先生のお誘いで始めた折紙は今も楽しんでおり、阪神大震災のボランティア活動や、ハロウィンのお菓子に折紙をそえて喜ばれている。明石の丁子先生は家政科卒の実力をもとに、シュークリームの研究を重ね、「くるみや」を立ち上げられ、現在は明石名物の一つになっている。丁子先生には初釜にお招き頂き、新しい楽しみを教わった。又何事にも積極的でよく助けて下さった須磨の山田さんとは童謡の会に出かけるようになり、今はシルバークラスを楽しんでいる。

日本人の平均寿命は男性七九・六四歳、女性八六・三九歳。轍のあとを踏みしめて、新しい時代を開拓して行きたいものです。

平成23年度 佐保会兵庫県支部総会

平成23年5月15日(日) 楠公会館 菊水の間

卒寿のお慶び

井上道子	様 (S17)	文(家)
増田笑子	様 (S17)	文(家)
田邊幸子	様 (S17)	文(特保)
太田孝子	様 (S17)	文(特保)

卒後55年のお慶び

北村幸子	様 (S31)	文(国)
村田祥子	様 (S31)	家(食)
遠井方子	様 (S31)	理(数)
大久保勝美	様 (S31)	文(国)
山田桂子	様 (S31)	文(幼)
加藤澄子	様 (S31)	文(幼)
志知千万	様 (S31)	文(幼)
高嶋悦子	様 (S31)	理(物)
浅見美智子	様 (S31)	文(国)
中桐邦子	様 (S31)	家(被)
大西翠	様 (S31)	文(英)
西山富美子	様 (S31)	文(社)
永田容子	様 (S31)	文(英)
天羽明子	様 (S31)	文(国)
萬代千鶴子	様 (S31)	文(教)
河合房枝	様 (S31)	理(化)
初田有子	様 (S31)	文(教)
田藤幸子	様 (S31)	家(食)
岡君代	様 (S31)	家(被)
大山明美	様 (S31)	理(数)
鈴木怜子	様 (S31)	理(動)

風薫る湊川神社の一角、楠公会館菊水の間に平成二十三年度佐保会兵庫県支部総会が開催されました。東日本大震災から二カ月、受付にも募金箱が備えられました。出席者五十二名、同窓の絆に会場はたちまち和気あいあいの空気となりましたが、東北の旧友を案じる会話もそここに聞かれ、災害の深刻さを身近に痛感しました。

会は、今年一年間の物故者に心からの黙祷を捧げた後、山本よしみ支部長の挨拶があり、初めに事務局の仕事に意欲ある方の協力を要請されました。活動状況の説明では、総会の開催、年八回の樫の会、ホームページ研究会立ち上げとその規約作り、新たな企画としては芸文関係のサークルが出来ればとの案もあり、その中心となる協力者を求めておられます。また、大震災の義援金募金については、今後一年間続くとのこと、皆様是非引き続き善意をお寄せ頂きたいと思えます。

その後、事業報告、会計報告、役員紹介、事業計画と予算、ホームページ規約等の説明があり、いずれも承認されました。また卒寿、卒後五十五年のお祝いと記念品の贈呈がなされ、お元氣な先輩方のお姿に拍手を送り、会場は一段とごやかになりました。

さらに本会は四十三名の新入会員を迎えたことが報告されました。

続いての講演は、元尼崎市教育長保田薫氏の日本精神史をふりかえってお話で、日本再考のよい機会を与えて頂きました。

会食を前に来賓の菅江謹一先生のご挨拶を賜り、お優しい人柄に心安らく思いました。

各部報告ではどの部も意欲的に企画が練られており、多数の参加が望まれます。「睦会」は今回、姫路での開催となるなど新たな試みとなっています。

本部からは、今般社団法人となる「佐保会」には新たに大学への会館借地料が生じるなど運営面での厳しい状況が報告され、役員の方々のご苦労が偲ばれます。佐保会が何をしてくれるかではなく、佐保会に私は何が出来るかと考えましようという役員さんの言葉は今後の佐保会発展のためにも重いものがありました。

最後に全員で、懐かしの校歌を斉唱して、母校への想いを新たにし、閉会しました。

(山川 記)



祝卒後55年 加藤澄子様(左端)、大西翠様(右端)

会次第

12 11	10 9 8	7	6	5 4 3 2 1
閉会のことば	校歌斉唱	来賓挨拶	各部報告	物故者に対し黙祷、開会のことば
	⑥ 大学女性協会	① 本部	⑦ ホームページ研究会規約	支部長挨拶
	⑤ 「支部だより」第35号編集委員紹介	② 卒後55年のお祝い	⑧ その他	新入会員紹介
	④ 「睦会」平成23年担当者紹介	③ 卒後55年のお祝い	① 卒寿のお祝い	議長選出
	③ ホームページ研究会	講演「甦れ 言葉の幸小国」	② 卒後55年のお祝い	① 平成22年度事業報告
	② 「樫の会」	休憩	③ 卒後55年のお祝い	② 平成22年度会計報告
	① 樫の会	保田 薫先生	④ 卒後55年のお祝い	③ 平成22年度会計監査報告
			⑤ 卒後55年のお祝い	④ 平成23年度役員承認及び紹介
			⑥ 卒後55年のお祝い	⑤ 平成23年度事業計画
			⑦ 卒後55年のお祝い	⑥ 平成23年度会計予算
			⑧ 卒後55年のお祝い	⑦ ホームページ研究会規約
			⑨ 卒後55年のお祝い	⑧ その他
			⑩ 卒後55年のお祝い	① 卒寿のお祝い
			⑪ 卒後55年のお祝い	② 卒後55年のお祝い
			⑫ 卒後55年のお祝い	③ 卒後55年のお祝い
			⑬ 卒後55年のお祝い	④ 卒後55年のお祝い
			⑭ 卒後55年のお祝い	⑤ 卒後55年のお祝い
			⑮ 卒後55年のお祝い	⑥ 卒後55年のお祝い
			⑯ 卒後55年のお祝い	⑦ 卒後55年のお祝い
			⑰ 卒後55年のお祝い	⑧ 卒後55年のお祝い
			⑱ 卒後55年のお祝い	⑨ 卒後55年のお祝い
			⑲ 卒後55年のお祝い	⑩ 卒後55年のお祝い
			⑳ 卒後55年のお祝い	⑪ 卒後55年のお祝い
			㉑ 卒後55年のお祝い	⑫ 卒後55年のお祝い
			㉒ 卒後55年のお祝い	⑬ 卒後55年のお祝い
			㉓ 卒後55年のお祝い	⑭ 卒後55年のお祝い
			㉔ 卒後55年のお祝い	⑮ 卒後55年のお祝い
			㉕ 卒後55年のお祝い	⑯ 卒後55年のお祝い
			㉖ 卒後55年のお祝い	⑰ 卒後55年のお祝い
			㉗ 卒後55年のお祝い	⑱ 卒後55年のお祝い
			㉘ 卒後55年のお祝い	⑲ 卒後55年のお祝い
			㉙ 卒後55年のお祝い	⑳ 卒後55年のお祝い
			㉚ 卒後55年のお祝い	㉑ 卒後55年のお祝い
			㉛ 卒後55年のお祝い	㉒ 卒後55年のお祝い
			㉜ 卒後55年のお祝い	㉓ 卒後55年のお祝い
			㉝ 卒後55年のお祝い	㉔ 卒後55年のお祝い
			㉞ 卒後55年のお祝い	㉕ 卒後55年のお祝い
			㉟ 卒後55年のお祝い	㉖ 卒後55年のお祝い
			㊱ 卒後55年のお祝い	㉗ 卒後55年のお祝い
			㊲ 卒後55年のお祝い	㉘ 卒後55年のお祝い
			㊳ 卒後55年のお祝い	㉙ 卒後55年のお祝い
			㊴ 卒後55年のお祝い	㉚ 卒後55年のお祝い
			㊵ 卒後55年のお祝い	㉛ 卒後55年のお祝い
			㊶ 卒後55年のお祝い	㉜ 卒後55年のお祝い
			㊷ 卒後55年のお祝い	㉝ 卒後55年のお祝い
			㊸ 卒後55年のお祝い	㉞ 卒後55年のお祝い
			㊹ 卒後55年のお祝い	㉟ 卒後55年のお祝い
			㊺ 卒後55年のお祝い	㊱ 卒後55年のお祝い
			㊻ 卒後55年のお祝い	㊲ 卒後55年のお祝い
			㊼ 卒後55年のお祝い	㊳ 卒後55年のお祝い
			㊽ 卒後55年のお祝い	㊴ 卒後55年のお祝い
			㊾ 卒後55年のお祝い	㊵ 卒後55年のお祝い
			㊿ 卒後55年のお祝い	㊶ 卒後55年のお祝い
			㊿ 卒後55年のお祝い	㊷ 卒後55年のお祝い
			㊿ 卒後55年のお祝い	㊸ 卒後55年のお祝い
			㊿ 卒後55年のお祝い	㊹ 卒後55年のお祝い
			㊿ 卒後55年のお祝い	㊺ 卒後55年のお祝い
			㊿ 卒後55年のお祝い	㊻ 卒後55年のお祝い
			㊿ 卒後55年のお祝い	㊼ 卒後55年のお祝い
			㊿ 卒後55年のお祝い	㊽ 卒後55年のお祝い
			㊿ 卒後55年のお祝い	㊾ 卒後55年のお祝い
			㊿ 卒後55年のお祝い	㊿ 卒後55年のお祝い

平成24年度支部総会

平成24年5月12日(土)

楠公会館

JR神戸駅・高速神戸駅
地下鉄大倉山駅下車

「甦れ 言霊の幸ふ国」

講師 保田 薫先生
(元尼崎市教育長)



この度の東日本大震災を振り返る時、果たして科学技術の進歩が人類の幸福

に繋がってきたのだろうか、という思いがふと心をよぎります。本日の講師保田先生もまたそのことに思いを馳せられ、数十年前も前に聴かれたという元奈良女子大学教授岡潔先生の言葉を引用され、「自然の美しさに心動かされる豊かな感性こそが後に知的な大仕事を成す上で大切なことです」という先見に改めて賛同されながら、この日の話を始められました。日本人の優れた資質、それは自然を愛し、言葉の力としてきたことと、と。

古代、自然はそのまま神でありました。「古事記」には「やまとは国のまほろば：青垣山籠れる大和しうるはし」と詠まれ、天皇は大和の丘から国見をして国をほめ、同時に民を思いやりました。

「万葉集」では人麻呂が自然と心を一つに重ねて詠いました。天皇も民も言葉に宿る不思議な力、言霊を信じて詠ってきました。「古今集」の序文にも鬼神の心をも揺るがす詩歌の大いなる力が強調されています。そして今も奈良、京都の自然の中を歩けば、彼らと同じ思いが蘇

かつての日本の国語教育では、子供たちは読本を大声で朗読したり、暗誦して楽しみ、美しい言葉を心に刻みました。道徳もまた、暗誦を繰り返して厳しく教えられました。

さらに数々の童謡。美しい韻律で綴られた日本の情緒や原風景、それらがどれほど子供たちを豊かに育ててきたことでしょうか。

今、先生は尼崎市で「契沖研究会」に参画され、短歌に親しむ場を開いておられます。そこでの子供たちの応募作が紹介されました。その素直で鋭い心の表出に、皆驚きの声を上げました。

これら様々な事例をもとに、できるだけ美しい言葉を使うこと、深く言葉を味わうことが、日本人の美しい生き方に繋がるのではないかと、そして、そのことを次世代の子供たちに伝え、言葉の持つ力を考える力の源として子供たちを育てることが、私たち大人の責務ではないかと先生は繰り返し語りかけられました。深く考えさせられる一日でした。

(山川 記)

東日本大災害に思う

支部長 山本よしみ (S33家食)

瓦礫に被われた街の映像が流れ、復興の目途が見えずいららする日々である。阪神淡路大震災を経験した私たちも当時のことを思い出し、自然災害の恐怖に震える。今回は地震、津波、放射能の三重災害。いつ終焉するのか見当もつかない

う人災が、人間の在り方について原点から考えさせる。何故こんな事態を引き起こしたのか、人類に未来はあるのだろうか。平家物語の「驕れる人は久しからず」の言葉が目の前にちらちらして仕方がない。阪神淡路大震災の時、私たちは何か悪いことをしたのかと思ひ、往復ビンタを受けてうちひしがれたことを思い出す。

昨年六月六日から五日間東北の太平洋側の美しいリアス式海岸の風景を満喫できたことの幸せを思う。久慈琥珀の原石はどうなったか、譜代まで乗った電車から眺めた橋は落ちてしまった。何年かかっただ元のようになるのだろうか、人間が安心して暮らせるようになるのだろうか。阪神淡路大震災の時は十年かかるだろうと予測されたが、多くの人々の力で見事に復興を果たし、落ち着いた生活を取り戻すことができた。人間万歳と涙を流した。今回の災害に私たちが人間万歳と叫ぶことのできる日は来るのだろうか。

自然を冒瀆しないで、人間が安心して暮らせる未来を守りたい。自然エネルギーと和して暮らしていける地球であってほしい。ささやかでも力の限り声をあげたい。

兵庫県支部は本部を核にして、総会案内状、総会での募金箱設置、「支部だより」発送時の案内の三段階で募金をよびかけている。その結果は後日報告する。

一日でも早い復興の喜びが聞かれる日が来ることを念じて止まない。

(平成23年6月10日記)

平成23年度 新入会員名簿

(敬称)

学部	氏名	地区	学部	氏名	地区	学部	氏名	地区
理数	山本 沙織	神戸市東灘区	文社情	毛利 恵子	西宮市	理数	高畑 徳子	佐用郡
生環住	杉田 仁美	神戸市東灘区	博前語	岡本 三千代	西宮市	生環食	木南 祐香	たつの市
理情	宮西 あずさ	神戸市灘区	生環住	安藤 三こ	伊丹市	理化	大森 美由紀	三田市
生環文	飯塚 美帆	神戸市灘区	文人関	安藤 永容	宝塚市	文古代	片岡 沙霧	洲本市
生環住	溝渕 祥子	神戸市中央区	理数	横井 京子	宝塚市	理情	竹村 良枝	洲本市
文地環	渡邊 慧美	神戸市北区	理物	木原 理美	宝塚市	文言情	沖村 佳世	淡路市
文日亜	山田 裕美子	神戸市北区	文人関	辻 真美子	川西市	文人関	岡田 望	淡路市
文スポ	是恒 純子	神戸市北区	理化	土居 彩香	明石市	文人関	高松 寛美	南あわじ市
理化	山田 静香	神戸市北区	文古代	野崎 早織	加古川市	文比歴	榊 真理子	奈良市
理生	平田 里枝子	神戸市北区	理物	稲山 晴香	三木市	文欧米	長谷川 菜那	千葉県
生環住	安藤 三こ	神戸市須磨区	生環文	水谷 暢子	加西市	理情	織田 奈津季	名古屋
文スポ	中谷 美里	神戸市西区	理情	濱田 靖子	姫路市	理生	大島 彩加	奈良市
理情	田中 裕子	神戸市西区	理化	山下 美沙	姫路市	生環食	大館 千尋	宮崎県
文古代	佐藤 春奈	西宮市	理情	高橋 舞	赤穂市	生環住	片山 理紗子	北九州市
文古代	湊 菜穂	西宮市						

(既入会の方は省略しました)

楳 (ゆずりは) の 会

平成23年・24年 年間行事予定

月 日	内 容	会 場	時 間	講師(敬称略)	備 考
H23.11.24(木)	美術鑑賞「和ガラスの神髄」 -びいどろ史料庫名品選-	神戸市立博物館	13:00~15:00	学芸員	解説付き鑑賞 入館料 実費
H24. 2.23(木)	ランチコンサート	ドンク(阪急・岡本)	11:30~15:00	土田 景介 田中 靖子	会費 3,500円 申し込み要
3.22(木)	書 道 「奥の細道」を書いてみよう	神戸市勤労会館	13:00~15:00	川口登美子	小筆、半紙など 筆ペン可
4.26(木)	古典を楽しむ 「平家物語」(祇園女御の事)	神戸市勤労会館	13:00~15:00	林 茂代	
5.24(木)	バスツアー 「花めぐり散策」	淡 路 島	集合場所 三宮 東急イ前 集合時間 9:30		会費(会 員)5,000円 (会員外)6,000円 バス代・昼食代含む 申し込み要
7.26(木)	手仕事 「小物入れ」	神戸市勤労会館	13:00~15:00	建林 章子	裁縫道具
9.27(木)	食文化「環境にやさしいローゼル (ケナフの一種)の栽培と食利用」	神戸市勤労会館	13:00~15:00	森下 敏子	
10.25(木)	美術鑑賞	神戸市立博物館	13:00~15:00	学芸員	解説付き鑑賞 入館料 実費
11.22(木)	歴史散歩 清盛の夢の跡 「福原の都を訪ねて」		集合場所 高速神戸駅 集合時間 10:30	埴岡 真弓	申し込み要

※事情により日時等変更することがあります。 ※入会は随時 佐保会員以外の入会も歓迎 ※会費 年間1,000円、当日のみ参加300円
※申し込み要 下記の運営委員、又は楳の会のEメール(yuzuriha@saho-hyogo.girlfriend.jp)にご連絡下さい。
※年間行事の近々の「詳細予告」や、終了した行事の内容は「佐保会兵庫支部」のホームページにUPされています。

平成23年度 運営委員 片寄真木子(06-6433-1420) 寺田 翠(078-911-5364) 山下 知子(078-822-0939)
田中 明子(079-492-0323) 大塚かよ子(079-222-2671) 岩崎 雅美(078-935-8748) 永田登喜代(079-423-5198)

「楳の会」に思い

寺田 翠 (S37文幼)

「佐保婦人学級」と「若草」が発展的に統合して「楳の会」が生まれて七年目を迎えました。

抑、楳の木は若葉がでそろって古い葉が落ちます。生命力を譲り、勢いを絶やさぬことで、縁起物として新年やお祝いの飾りに用いられます。新年の季語でもあります。そんな謂われのある「楳の会」に私たち運営委員は、親しみと愛しさを持っていきます。街中にカルチャー講座が溢れている現代に、「楳の会」の参加者が年々増えていることは、その道を究められた講師の方々の熱意と、佐保会に熱い思いをお寄せになる受講者の方々の意欲的な姿勢に因るところが大きいと思っています。毎回、和やかに充実感を共有できるのが嬉しく、明日への活力と励みになっています。

五月二十六日、新緑の奈良を訪ねました。何れの道を行いても、風景の懐かしさと新緑の鮮やかさが、満身に染み透りました。入江泰吉記念の奈良市写真美術館では、多くの写真それぞれに各人の思い入れがあり、往時を偲びながら飽きることなく見入りました。志賀直哉旧居では、二階の和室で春日山を眺めながらゆっくり寛ぎました。ささやきの小道を通り抜け飛火野へ向かう折から、時鳥の澄んだ声を聴き、弥が上にも心が洗われ、まことに爽やかな一日となりました。

これからも「楳の会」の発展を願うとともに、皆さまのあたたかいご指導とご協力をお願い申し上げます。

ランチコンサートに酔う

田中 明子 (S43文幼)

楳の会は、月の第四木曜日に、年間八回あります。その中で最も人気の高いのがランチコンサートです。

今年も二月二十四日、阪急岡本のドンクに三十余名が集いました。講師は声楽家土田景介さんとピアノリスト田中靖子さんです。懐かしい文部省唱歌や外国民謡、青春時代に歌った「忘れな草をあなたに」等を歌いました。歌の神髄と曲想を基に、リズム感、高低、強弱、ハーモニーなど指導者の助言通りに歌うと、気分的にも高揚し、上手に歌えたように思いました。Yさんによると「声は年をとらないのかしら、年齢を感じさせない若やいだ歌声が聞こえていましたよ」と。私自身も歌い終わった時、心も晴れやかですっきりしました。同時に歌の持つ威力に魅了されました。

最後に土田さんの迫力あるイタリア歌曲の独唱と、田中さんのパッハの名曲演奏を聴かせていただきました。日頃こんなに身近に聴く機会に恵まれたい私たちには、とても大きな貴重な体験でした。和やかな雰囲気の中、美味なるランチをいただきながら、幸せに酔いしれたひとときでした。

次回またお会いできますように！



ランチコンサート

ホームページ研究会報告

中村 京子 (S32理物)
 当ホームページでは様の会をはじめ各会の活動予定・報告など、お知らせしています。「佐保会兵庫県支部」と検索欄に書き込むだけでご覧頂けます。なお、当会では来春下記講座を準備しています。お気軽にご参加下さい。

ホームページ研究会

平成二十二年度睦会報告

射延 瑞枝 (S42家被)
 第三十五回睦会は十一月十四日(日)新神戸のクラウンプラザホテル神戸にて三十二名の参加で開催されました。今年には諸事情により場所を変更したのですが、少し不安な思いで当日を迎えたのですが、全員揃ってほっとしました。広く明るい会場に五つの円卓のゆったりとした雰囲気の中、会が始まり、なだ万の日本料理を味わいながら歓談。次にひとことスピーチとして各卓から二人ずつ十人の方からお話し頂きま

睦会

した。時間的に余裕もあり、おひとりおひとり個性豊かなお話をゆつくり伺うことができ、和やかで楽しいひとときを過ごせました。
 奈良女子大学ゆかりの酒粕入りクッキーをお土産にお持ち帰り頂きました。会終了後、参加者の方から、今回変更した会場、とりやめた乾杯と酒類、スピーチなどについて「よかった」とのお声を頂き、意を強くしました。五回の準備会を経て、会を無事終えることができましたこと感謝申し上げます。

淡路地区もより会報告

由井 弥生 (S42家被)
 平成二十三年五月二十八日、台風二号と梅雨入り直後の天候不順の中、ウエスティンホテル喫茶ルームで五名の参加で行いました。

もより会

初めてお目にかかった人とも同窓の誼ですぐに打ち解け、自己紹介、近況報告ではじまりました。私は、永い間、地区リーダーをさせていただいた感謝

とお詫びの気持ち伝え、六月より平野真寿美様(S44理化)に交替する旨報告致しました。
 後、スクールアドヴァイザーを永年された大先輩の大山明美様(S31理数)のお話「子供の心、見えますか」を拝聴し、孫のかかわりに大いに役立っていたと思います。拍手拍手でもより会は終了し、東灘区との交流会へと会場を移しました。

パソコン講座のお知らせ
「パソコンで開く新しい世界」
 講師 丸岡 玲子さん (SS3理数)
 株式会社アポロンジャパン代表取締役
 2012年2月29日(水) 2:00~4:00
 ●場所：神戸市勤労会館
 ●主催：佐保会兵庫県支部
 「ホームページ研究会」
 ●参加費：無料(申し込み不要)
 パソコンを使うとどんなメリットが？
 何から始めたらいいの？
 パソコンの購入、ネット契約、インターネット、メール、ワードやエクセルの活用、ウイルス対策など、日頃の疑問に答えていただけるよい機会です。

平成23年度 もより会 地区リーダー

(敬称略)

市・町	氏名	卒業年学部	電話番号	市・町	氏名	卒業年学部	電話番号													
神戸市	東灘区 松本佳代子 S44文 英 078-843-7341	加古川市 東播磨地区 永田登喜代 S45理 数 079-423-5198	日笠 憲子 S47家 食 078-822-3381	高砂市 播磨町 (加古郡) 田中 明子 S43文 幼 079-492-0323	灘区 松田 洋子 S50家 住 078-843-2280	稲美町 (加古郡) 松山 和子 S45理 数 0794-85-3648	中央区 川上ミドリ S46文 修教 078-341-2351	兵庫区 古田貴美子 S59家 修被 078-672-0691	松本 良子 S52理 動 0795-42-9756	長田区										
	北区 川崎栄理子 S51文 英 078-982-7576	清水 陽子 S57理 生 078-581-6754	須磨区 光上記久子 S35文 幼 078-793-2661	大橋 節子 S41文 英 078-792-1440	垂水区 香川 昌子 S41文 幼 078-708-6425	山本 裕子 S52文 国 078-705-0007	西区 山中 邦子 S53文 英 078-991-2506	新小田淑子 S59理 化 078-997-0069	姫路市 西播磨地区 高馬 久美 S50理 数 079-337-2227	相生市 相生市 赤穂市 たつの市 高松 三枝 S50家 住 079-288-0429	尾上美樹子 S50家 食 079-236-5408									
	尼崎市 辻本 久代 S40家 食 06-6489-0147	山城 隆子 S40家 食 06-6491-3467	西宮市 田中佳世子 S40文 国 0798-33-0252	山川 泰子 S41文 国 0798-70-3845	芦屋市 山崎古都子 S43家 修住 0797-32-2969	唐島 幸子 S43文 英 0797-23-3541	伊丹市 中井 昌子 S43家 食 072-781-9482	狩野 千枝 S45理 化 072-779-4666	宝塚市 大槻真紀子 S38家 食 0797-88-3764	牧 桂子 S44文 英 0797-72-2234	川西市 萬代千鶴子 S31文 教 072-799-0723	猪名川町 (川辺郡) 前野 静代 S41文 英 072-798-1827	明石市 寺田 翠 S37文 幼 078-911-5364	乙武ヨシミ S44理 動 078-924-3707	豊岡市 但馬地区 米田 純子 S40理 動 079-669-1728	朝来市 養父市 新温泉町 (美方郡) 香美町 (美方郡) 森 由紀 S54家 修被 079-562-4181	篠山市 丹波地区 小林 嘉子 S37家 被 079-552-3690	丹波市 三角三紀子 S44理 数 0795-70-8111	洲本市 淡路地区 平野真寿美 S44理 化 0799-50-3801	淡路市 南あわじ市

佐保会兵庫県支部ホームページ研究会規約

第1章 総 則

第1条 名称

この会は、佐保会兵庫県支部ホームページ研究会と称する（以下「本会」という）。

第2条 委員の構成

本会は、佐保会兵庫県支部の会員から自薦他薦をもって選出される委員で構成する。

本会に次の委員を置く。

- | | |
|-------------------|--------|
| (1) 本会リーダー | : 1名 |
| (2) 各地区ホームページ担当者 | : 1名以上 |
| (3) 事務局役員（支部長を含む） | : 1名以上 |
| (4) 標の会ホームページ担当者 | : 1名以上 |

第3条 事務局

本会の事務局は、佐保会兵庫県支部事務局に置く。

第2章 目的および事業

第4条 目的

情報化社会の中で、インターネット等の情報通信基盤及び技術、並びに情報機器を活用して、佐保会活動を活性化し、会員相互の資質の向上、親睦、互助を深めることを目的とする。

第5条 事業

1. 本会は、前条の目的を達成するため、佐保会兵庫県支部の事業として次の活動を行う。

- (1) 兵庫県支部ホームページ及び各地区ホームページの作成、管理。
- (2) 各地区ホームページの構築、管理に関する各種支援。
- (3) 支部会員の情報リテラシー向上を目的としたパソコン技術の研修、その他本会の目的達成に必要な活動。
- (4) 兵庫県支部長は、必要に応じて、活動に関する報告を本会に求めることができる。

2. 兵庫県支部ホームページは以下の内容で構成されるものとする。

- (1) TOPページ : 新着ニュース、事務局連絡先、会費振込先 等
- (2) 事務局だより : 事業報告、事業予定 等
- (3) 支部総会 : 過去の総会次第、写真 等
- (4) 睦会だより : 睦会の担当者から提供される情報
- (5) 標の会だより : 標の会の委員又は参加者から提供される情報
- (6) ホームページ研究会だより : 本会の活動状況
- (7) 各地区だより : 地区担当から提供される「もより会」の情報 等
- (8) 支部会員だより : 兵庫県支部会員の情報を期限付きで掲載
- (9) 佐保会本部へのリンク
- (10) 奈良女子大学へのリンク

3. ホームページの管理方法

- (1) 管理は本会リーダーを中心にして、委員が行う。
問題が生じた場合は、状況に合わせて本会委員が協議・検討し、最善の方法を講じるよう努力する。
- (2) 各地区のホームページについては、各地区会員からの情報で構成し、本会のアドバイスを受ける。
- (3) 支部会員本人から「支部会員だより」への情報掲載依頼があった場合、本会で内容を検討し、掲載内容を調整する。
- (4) 佐保会兵庫県支部ホームページは兵庫県支部からの補助金で運営する。

付則

1. 規約の改廃

本会の規約の改廃は、佐保会兵庫県支部総会の議決を経なければならない。

2. 施行日

本規約は、2011年5月15日から施行する。

3. 規約作成委員（2011年3月17日現在 敬称略・卒年順）

中村京子（S32理物）、山本よしみ（S33家食）、片寄真木子（S36家食）、藤岡利子（S38家被）、
山下知子（S39理物）、衣笠弘美（S41文体）、鈴木美根子（S42家食）、桂美穂子（S46理生）、
丸岡玲子（S53理数）、杉本香織（H21博前環）

「平家物語」と兵庫津

—平清盛の足跡を中心に—

岩城 尚子 (S 33文国)

兵庫津界限 史跡



兵庫津は、平清盛によって基礎が築かれ、開かれてきた湊です。

奈良時代にも湊はありましたが、大風のために多くの船が転覆しました。津の西側には和川の岬があつて風波を防ぎましたが、東南側はなにもなく嵐を防ぐことができなかったのです。

清盛は、政治家として卓抜した計画と実行力をもって、湊を築き整備して外国との貿易を開こうとしたのです。小山を崩し、その土を運び、島を造るこの工事は難航を極め、何度も失敗したので、人柱を立てようということになり、三十人の旅人が捕えられました。これを見たその時十七才の少年松王丸が進み出て、自ら人柱となって万巻の経と共に海に沈んだという哀話が残っています。こうしてできたのが「経が島」今の島上町で、すぐ側に築島橋という名前も残っています。築島寺(来迎寺) 兵庫区島上町 境内には次の碑や塔があります。

「松王小児入海の碑」

松王丸をとむらうために建てられた碑。

「妓王妓女の供養塔」

清盛の寵愛を受け、人も羨む勢いだったが、その愛が佛御前に移った時、妓王は妹の妓女と共に佛門に入り、京都嵯峨で平家の菩提をとむらいながら一生を終えました。尼になった時妓王は二十一才、妓女は十九才でした。

「平家物語」巻一妓王

能福寺 兵庫区北逆瀬川町

「兵庫の大佛さま」

明治二十四年(一八九一年)に開眼して以来「兵庫の大佛さま」として親しまれてきましたが、昭和十六年第二次世界大戦のために供出されて無くなっていました。現在は浄財を集めて新しい「兵庫の大佛」が丁度百年後の平成三年五月(一九九一年)に建立されました。奈良・鎌倉の大佛と共に日本の三大佛と言われています。

「平相国(清盛)廟所」

この寺の第一代の住職と言われる円実法眼は、養和元年(一一八一年)に京都で亡くなった清盛の遺言によって、その全遺骨を首にかけてこの地に持ってきました。能福寺の日記には清盛の遺骨は法華堂に納められたとあります。

「滝善三郎の碑と墓所」—神戸事件

幕末、神戸にいたイギリス水兵の無礼に対して、備前藩の一人がやりで切りつけたのが神戸事件の発端です。当時国際的大問題となり、隊長滝善三郎がその責任をとって切腹しました。事件の場所は居留地、現在の大丸前、三宮神社あたりです。三宮神社には「神戸事件発生の地」

の碑がありますが、切腹したのは、この

能福寺近くの永福寺です。永福寺は今も無く、能福寺で、滝善三郎をとむらい、今も人々は花を手向けます。このことはアーネスト・サトウの「一外交官のみた明治維新」に詳しく書かれています。

清盛塚と琵琶塚 兵庫区南逆瀬川町一丁目

「十三重の塔」

この塔が清盛の墓でないことは大正十二年に確認されましたが、神戸の人々は神戸港の基礎を築いた清盛を敬愛して清盛塚と共々に大切にしています。



「琵琶塚」

同所

もとは道路を挟んで向かい側に前方後円墳があつて、形が琵琶に似ていたので、琵琶塚と呼ばれていました。琵琶の名手平経正(敦盛の兄)に結びつけて経正の塚と言われていました。その塚も無くなって、明治三十五年に有志によって、こちら側に碑が建てられました。琵琶塚と書かれた文字の雄渾なのに、圧倒され



兵庫城跡と最初の兵庫県庁跡

この碑は、もと神戸中央卸売市場の中にありましたが現在は兵庫運河沿いの遊

歩道に移されています。

兵庫城は、織田信長から、花隈城を攻め落とした功により池田信輝・輝政父子に与えられました。この地に池田氏は天守閣を備えた兵庫城を築き、その城下は現在の中の島(中央市場辺)切戸町、新町、関屋町に及ぶとされます。

兵庫県庁跡は明治元年新政府が出来た、最初の兵庫県庁がこの地に置かれ、初代の知事には伊藤俊輔(博文)がなりました。

真光寺 兵庫区松原通一丁目

一遍上人墓所。遊行聖・一遍の最期の場所となったこの寺には墓があります。一遍は寺も建てず、佛像も造らず、經典もなく、



一遍上人影

薬仙寺

兵庫区南逆瀬川町二丁目

「萱の御所」跡の碑があり、清盛が、後白河法皇を、ここに押し込めていたと伝えられています。

運河

兵庫の運河は、新川と兵庫の二つの運河があり、船が避難するために造られました。兵庫の豪商、神田兵右衛門・北風正造・八尾善四郎らが私財をはたいて今の運河になりました。工事は明治七年に始まり、明治三十一年に完成しました。

以上兵庫津の跡を辿って来ましたが、機会があれば御散策下さればと思います。

私のターニング・ポイント

平坦でまっすぐな人生があるでしょうか。「川の流れのように」の歌詞ではないけれど、でこぼこ道や曲がりくねった道、地図さえないこともあります。傍目には学生時代の専攻とはかけ離れたようにみえる道を歩んでおいでの方々に語っていただきました。

俳画に出会う

那須 瑞子(S23臨家)
(号・青魚)

昭和初期生まれの私どもの世代は恋愛結婚は少なく、私も知り合いのおばさんの紹介で見合い結婚しました。夫・その両親・二人の弟との六人の生活が始まりました。朝食と弁当作り、掃除・洗濯、昼食作り・夕食作りと、家事に明け暮れる毎日でした。二年後に女兒出産、更に多忙になりました。四年がたつうちに「もう少し普通にすんなり生活したい」と自分の人生を考えるようになりまし。言にくい思いをしましたが、夫から両親に伝えられ、一年がかりの紆余曲折を経て、やっと核家族が実現。その後男児誕生で四人家族になりました。第二人も結婚、みんな納まるべき所を得た感がありました。ところが、二人きりになって淋しいから一緒に暮らしたいと両親が言いだし、家を広く建て直して、又もや六人の同居生活を再開しました。

私はこの際、女学校時代から好きだった絵に興味にする決心をしました。丁度そのころ、たまたま立ち寄った阪

神百貨店丹青堂で赤松柳史先生の俳画に心奪われ、同店の同先生の教室を受講することにしました。お稽古日は月二回で、これなら家事もこなせます。開店時間から閉店時間まで、最前列の席で先生の筆法を懸命に学びました。そのうち十年ほど経って先生から教室で教えるようにと声がかかり、今ではNHK学園・朝日・よみうり、その他七教室の講師、日貿出版から俳画関係の五冊の本と、思わぬ人生を歩むことになりました。

描く楽しみを通じて人とのつながりが広がり、深まりました。はがきや著袋に描き添え、俳画を暮らしの中に生かして楽しんでくださる方もあります。そんな喜びに励まされて描き続けています。現在八十三歳、瘦身ながらなんの持病もありません。自分の人生はあくせくせず、一歩一歩着実に踏み進むことが大切と思っております。



私の曲がり角

永吉 和子(S34理化)

その頃、学卒女性の就職先の多くは、学校の先生でした。特に奈良女子大は女高師の伝統が強く受け継がれていました。私の専攻は化学で、少しずつ新しい分野へと先輩方が開拓し、就職されていきました。私の属していたゼミからは、毎年、在阪の洋酒メーカーの研究室に採用されており、私もゼミの教授に付いて行き、研究室も見学させてもらっていました。しかし、この年、あちこちで道徳教育反対の運動が起り、女子大でも授業をボイコット、学校は学生により閉鎖、多くの学生が運動に参加して、警官との小ぜり合いの様子や、テレビ、新聞で大きく報道されました。それで今期の採用はしないと本社からの通達でした。がっかりしました。結局就職できたのは、毛染めメーカーの研究室でした。品質管理と新しい商品の開発を研究室で行っていました。

結婚を機に退職、二人の子供の母となり、専業主婦の座にどっぷり漬かって何もしないでいると、「もったいない」と言われたりしていたのですが、金物屋のおかみさんの座が待っていたのです。というのは、私は四人姉妹の



長女なのですが、父は、母の自立を考え、母に自分亡きに備えて、金物の小売業をさせていました。一番下の妹の結婚も決まり、母が一人残された後どうするかとなって、主人が脱サラをして店を継ぐことになったのです。私は一旦家を出てはいても、長女であるので、自分が母を見なければと考えたようです。実は余り商売は好きではなかったのですが、これも宿命だったのでしょう。

主人が亡くなって五年、今では金物屋のおばさんで一人頑張っています。趣味の絵のごとく、我流の筆遣いで、自己流の色付けをして店から元気を貰っているのです。今では商売を好きになって、私の元気の源です。

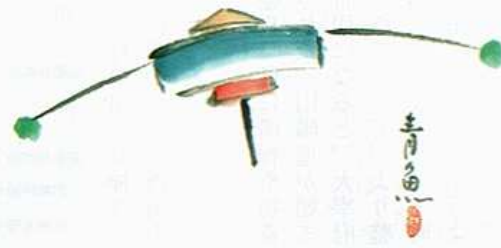
「共生」の道

坂倉 晴恵(S37家食)

やはり他人には「曲がり角」のように見えるのかなと、頂いたテーマを見て思いました。確かに友人から「大変なことは止めてのんびり過したら」と

忠告されたことを思い出します。でも私の中では大学入学以降今まで、まったく繋がっていない道です。

安阻阻止の学生運動や、構内の小さな売店を大学生協連に加盟させようと活動する学生でした。卒業後はキリスト教主義の学校に就職。民主的な環境の中、個性溢れる同僚ややる気のある生徒と共に、釜ヶ崎や長島愛生園、養護施設等を訪れたり、養護施設や難民の子ども達を招待する日の食事作り、クリスマス



の贈り物製作等、様々な経験をさせてもらいました。毎日の礼拝を通して尊敬する人や生き方にも出会え、授業でも「共生」や「ノーマライゼーション」の考え方を若い人達の心に届けたいとの思いを持っていました。退職しても空いた時間を「共生」に使いたい。それを実現するために身近にあったのが介護の仕事です。退職後ヘルパーの資格を取得。その頃から母に認知症の症状が見られるようになりまし。人生のしめくりを彩って下さるような居場所を探しましたが見つかりませんでした。小規模で親戚に遊びに行くような気持ちで来て頂けて、お世話が行き届くように十分なスタッフを配置、そこで

は花の蕾がほころぶように、みんなの笑顔が見られるデイサービス施設を作ろう。全員に気配りできるように定員は十名としました。私はそこで利用者さんにも参加してもらいながら昼食を作り、「おいしい」の一言に元気を貰っています。友人や近隣の方、教え子、ボランティアの人達の優しさに助けられ感謝感謝の日々です。



食品加工の楽しみ

村田 好子 (S 39 家食)

田舎生まれの田舎育ちで現在も田舎暮らしである。田畑や庭で手に入る野菜や果物を利用し、季節の変化を楽しみながら、暮らしている。

こんにゃくが作りたくなって、多可町の友人から種芋をもらって栽培すること3年。秋になり畑から掘り出した芋をゆでてミキサーにかけ、糊状にして凝固剤を加え、形を整えてゆでるとこんにゃくが出来上がる。材料の芋の約四倍のこんにゃくができる。とても効率のよい加工品である。

冬になると我が家は一時期、家の中全体に麴の匂いが漂う。米を蒸し、麴菌を混ぜ、布の袋に入れ、ビニールをしいたホットカーペットの上に置く。ふとんをかけて四十八時間経過すると

米麴が出来上がる。これが私流の麴の作り方である。自家製の麴と煮た大豆と塩をませ、味噌すり機を通して容器に詰め、一年間熟成させると味噌ができる。米と大豆は自家製だから、材料費は塩と種麴で数百円。味噌作りを体験したいという人があり、近くのコミユニティーセンターで年一回味噌作りの講習会を実施している。

ある時、小学校の先生と話していて、総合学習で大豆を栽培したが、その後どうしようということになり、「豆腐が出来ますよ。」と言ったのが縁で小学三年生に豆腐作りの授業を実施した。豆腐の型がないので、ザルを利用して丸い豆腐を作り、おからでクッキーを作った。

その他、初夏にはいちごジャム、梅干し、梅酒、梅味噌、らっきょう漬。夏には早朝から干瓢むき。秋には干し柿、ゆずジャム作り等。安全な食べ物食卓に出しつつ、忙しく暮らすことが老化防止になるかと期待している。



社会人入学のきっかけ

杉本 香織 (H 21 博前環)

他大学を卒業後、薬剤師として仕事をしてきました。小児科の隣の薬局で

仕事を始めて感じたことは、タバコを吸う若いママが非常に多いということ。小さな子供のそばに常に居るママは、喫煙率ゼロであってほしい。そして、これから社会を担う子供たちの喫煙率もゼロであるべき。そこで子供たちにも理解しやすいように喫煙防止の教育教材として、エプロンを使った人形劇を演じながら、地元の幼稚園や保育園で、タバコの害の話をして回るという活動を、地元薬剤師会の有志メンバーで行って参りました。しかし、この教育は本当に効果があるのか？喫煙防止教育やりっぱなしではなく、その効果の検証をするべきだと気付いたのが、私が奈良女子大学大学院・人間文化研究科博士前期課程生活健康学専攻生活健康学コースに社会人入学することになるきっかけです。仕事と家事と研究の3つをうまくやっていくのはとても難しく、同じ研究室の皆様、大学の先生方のご協力無しではできないことでした。無事に修了しましたが、子供たちへ健康について考える大切さを伝えていくのは、私のライフワークだと思

い、今も仕事中、仕事の合間に続いています。



人形劇用のエプロン

西国街道を歩く

西宮市域



桜も終りかけた四月中旬、阪神香櫨園駅から髭の渡しに向かつて、西国街道をたどってみることにした。

西国街道は、奈良時代に情報や物資の連絡用に整備された、山陽道が始まりである。平安時代になると、大宰府と京都を結ぶ重要な道として、より整備され利用されるようになった。当時の街道は、今の国道一七一号に沿うように、京都から山崎、芥川(高槻市)・郡山(茨木市)・瀬川(箕面市)・昆陽(伊丹市)を経て、髭の渡し(報徳学園の東)で武庫川を渡り、大市・広田からまっすぐ南西に向かい、夙川堤に出て、森具を経て打出(芦屋市)へと進んでいったようである。江戸時代に参勤交代の制度が施行され、中世から次第に発展してきた西宮(西宮神社あたり)に宿駅が置かれると、街道は広田付近から南に折れ、大阪から西進してきた中国街道と合流して、西宮神社の南を通過して再び西へ

向かうようになった。

レトロな雰囲気のある香櫨園駅のすぐ南側を通る街道を、東に200m余り歩くと、西宮神社の大練塀が左手に見えてくる。

西宮神社

創建時期は不明だが、平安時代には「えびす社」として篤く信仰されていたらしい。商売繁盛の神様「えべっさん」の総本社で、一月の十日えびすは三日間で百万人を超す人でにぎわい、表大門(赤門)の「開門神事福男選」の様子は毎年テレビで放映される。この通称「赤門」は高さ9mの丹塗りの大門で、それから南北にのびる、長さ247mの土作りの大練塀とともに重要文化財で、豊臣秀頼の奇進といわれている。練塀の土は満池谷から掘り出され、掘り出した跡が池になったとか、土を運ぶ人たちの「ねってこい、ねってこい」という掛け声からニテコ池とついたりといわれている。

西国街道は大練塀に沿って赤門の正面で直角に曲がり、400m先で通称札場筋(現国道一七一号線)と交差する。



本町通り

江戸時代の西宮は本陣・脇本陣を備える宿駅に指定されていた。西宮神社の門

前を貫通するこの本町通りを、往時は町人や宿をとった武士達が行き交い賑わったことだろう。また不穏な気漂う幕末には、長州藩の下級武士達が身を隠すべく人混みに紛れたことだろう。司馬遼太郎の小説「世に棲む日々」では、幕末の西宮、この辺りで高杉晋作、恋人おうのが登場する。

街道は大阪からの中国街道とぶつかる市役所周辺で東川沿いに北上する。

市役所周辺

このあたりはもと六湛寺の森があった場所、今はその塔頭のひとつであった茂松寺と六湛寺町という町名が残っている。クスノキの巨木が多いこの一帯で、一本の黒松の大樹があり、その足元に「六湛寺」と刻まれた石碑、その脇には「右甲山左越木岩村」と刻まれた石碑がある。樹齢六百年といわれる「大クス」は兵庫県指定文化財である。

街道は東川に沿って中須佐町・青木町を抜け、国道一七一号を横切り、中央運動公園の真ん中を通り抜けることになるので西側に迂回し、柳本町をぬけると、道の両側に松並木の、広田神社参詣道が見えてくる。ちょうど境内には県指定天然記念物のコバノミツバツツジが咲き誇り、しばし脚の疲れを癒すことにする。

広田神社

広田は西宮市域で最初に文獻に登場する古い地名で、「日本書紀」神功皇后の条に登場する神威のある社である。朝廷が広田神社を伊勢神宮や春日大社と同格の官幣社(朝廷が供物を奉じて祈願する特定の神社)に列したこと、公家達の歌合せの催し、源頼朝が莊園を寄進した記

録も残されている。古来、武将などが必勝を祈願した故事にならってか、多くの人が必勝祈願に訪れる。阪神タイガースの選手達が優勝祈願に訪れるのは有名。広田の西にある越水は南北朝初期の軍記「太平記」に小清水の名で出ており、越水城があったところで、ここでは足利尊氏・直義兄弟の骨肉の争いによる戦乱があり、信長の時代に廃城になっている。



下大市・上大市

御手洗川に沿って街道に戻り、この辺りからしばらく国道一七一号に平行して歩く。

古代には現在の阪急神戸線付近まで武庫水門といわれ、入り江だったらしく、地名は大きな市として賑わった名残である。この辺り、街道脇などに道標が五本立っている。神呪寺、門戸厄神への道を示すもの、大坂、尼崎方面からの道と、西国街道の交差する場所を示すものなどで、今は風化して文獻無しには中々読みにくく、「日本三休厄神明王すぐ尼崎大坂左伊丹池田京道是ヨリ西宮江三十丁尼崎生魚上積中」とか「すぐか婦と山観音是ヨリ十五丁」など。

新幹線の架橋をくぐり、右手に鯨池浄水場を見ながら、報徳学園の西側、鬱そうとした樹々の陰を抜けると、明るい武庫川の堤防に出た。



髭の渡し

尼崎側には石碑などがあるようだが、西宮側には河川敷に小さな説明板があるのみ。それによると「対岸の西昆陽村に髭を蓄えた老人の茶屋があり、いっしょに髭の渡しと称されるようになった。川渡しの管理は西昆陽、常松（尼崎側）段上、上大市、下大市が月番で受け持った。湯水期は徒行、増水時は肩車、蓮台で渡した。諸大名、公用旅行者のほか一般旅行者の増加に伴い、五か村の負担が増大したので、渡船使用許可願を役所に出し許可された。大名、武士、僧侶などは無料であった」とある。明治42年発行の地形図には「西国街道」が明記され（国道一七一号は昭和45年）、対岸に「髭茶屋」との村落地名もあり、最初の甲武橋がこの年に架けられている。

武庫川河川敷は、ジョギングや散歩を楽しむ市民、家族連れの愉しそうな声があふれていた。阪神香櫨園駅から約2万歩、十一キロ余の行程を終えた。溝端玲子(S41文地)

兵庫芸術文化センター

兵庫県立芸術文化センターは2005年10月22日に開館した。阪急電車西宮北口駅から直結する立地条件、佐渡裕芸術監督の熱意、県民の支持によって活況を呈している。館内には、2000席の大ホール、800席の中ホール、417席の小ホールがある。木目の美しい内装、

ゆるやかで広い階段、広々としたロビー、屋上庭園など、心と空間が嬉しい。たびたび足を運ぶ市民の一人として紹介記事を書こう。

PAC(兵庫芸術文化センター管弦楽団)

オーディションで世界各国から選ばれた35歳までの若手演奏家が最長3年間で籍地できる。2011年6月で44回目の定期演奏会。各回、金・土・日曜日、3時からのマチネー公演。一期分のチケットを購入した定期会員に、木曜日のリハーサルが公開される。その後の佐渡監督が語る、音楽家たちとの交流譚や曲の解説などが楽しい。半分は佐渡監督の指揮だが、井上道義、下野竜也、金聖響、ケン・シエ、オッコ・カムなどもお馴染みとなった。卒団メンバーがソリストとして演奏することもある。古典派から現代の交響曲、ピアノ・ヴァイオリン・チェロ・フルート・ジャズピアノ・和太鼓・箏などの協奏曲等、曲目は多彩。阪神大震災の復興と鎮魂をこめて初回は「G線上のアリア」で始まった。東北震災後の42回も同曲の演奏後、黙祷が捧げられた。他に名曲演奏会、オペラ、室内オーケストラ、地方公演、出前公演など。

SKO(スーパーキッズオーケストラ)

全国の、小学生から高校生の応募者がオーディションで選ばれて構成される。

ワンコインコンサート

ワンコインつまり500円のチケットで鑑賞できるコンサート。PACやSKO卒団者をはじめ、新進の演奏家が出演する。満席の大ホールで、平日の午前、

時には午後も。トークを交えつつ、謙虚に、臆せず、堂々たる熱演がたのしい。

ほどの解説付き音楽鑑賞会。40公演。連日大型バスが何台も出入りする。

演劇・芸能

演奏会ばかり紹介してきたが、演劇部門も多彩である。能、狂言、新作能、歌舞伎、人形浄瑠璃、落語、新劇、朗読劇、京劇、バレエ等々。

毎年佐渡裕プロデュースオペラが一週間ほど連続上演される。今年度は7月に「こうもり」。「ヘンゼルとグレーテル」の際は西宮市内の洋菓子職人たちがビスケットやチョコレートなどで作った家や人形がロビーにずらりと陳列されて見事だった。その他「カルメン」「メリーウイドウ」「蝶々夫人」「キャンディード」。

青少年芸術体験事業

「わくわくオーケストラ教室」

兵庫県下の中学1年生が対象。1時間

なるほどバックステージツアー
敷地面積が1・3万㎡もあるセンターの西側、巨大な扉に大型トラックが尻を向けている場面に出くわす。大道具の搬出入口だ。あの華やかな舞台を支える内側はどんなだろうと興味をそそられる。そんな好奇心を満たしてくれる催しがこのバックステージツアーである。各回テーマに添ってセンターの職員が案内してくれる。

テレビ番組「題名のない音楽会」の司会者、ベルリン・ドイツ交響楽団定期演奏会指揮者と、大活躍の佐渡監督である。PACで指揮棒を振る機会が少なくなるのではないかと危惧する向きもある。心配ご無用。11月には素晴らしい企画が実現する。監督がベルリン・ドイツ交響楽団を率いて演奏会を開いてくれるのだ。しかも、39回定期演奏会の名演奏で聴衆を唸らせたエフゲニ・ボジャノフがピアノ協奏曲を弾く。26歳の彼は、辻井伸行が優勝した時のヴァン・クライバーン国際音楽コンクールのファイナリスト。監督はこの時から目に、いや、耳にとめていた。

基礎工事のころ、水田跡の小さきままな足形の写真が工事現場の扉に掲げられた。溝が無く、段差によって水を導いた、弥生時代の遺跡という。我々は古いものを受け継ぎ、伝え、新しいものを創り出しながら、生き継いでいるのだ。

田中佳世子(S40文園)



平成23年度 佐保会兵庫県支部役員

役職名	氏名	卒業年学部学科	住所
支部長	山本よしみ	S33家食	神戸市西区
副支部長	岩崎 雅美	S44家被	明石市
事務局	山下 知子	S39理物	神戸市東灘区
	村田 好子	S39家食	小野市
	古山美智子	S40理数	神戸市西区
	松本佳代子	S44文英	神戸市東灘区
	永田登喜代	S45理数	加古川市
	片寄眞木子	S36家食	尼崎市
標の会	寺田 翠	S37文幼	明石市
	山下 知子	S39理物	神戸市東灘区
	田中 明子	S43文幼	加古郡稲美町
	大塚かよ子	S44文幼	姫路市
	岩崎 雅美	S44家被	明石市
	永田登喜代	S45理数	加古川市
	中村 京子	S32理物	神戸市東灘区
	山本よしみ	S33家食	神戸市西区
	片寄眞木子	S36家食	尼崎市
	鈴木 久子	S37家食	尼崎市
ホームページ研究会	衣笠 弘美	S41文体	神戸市北区
	鈴木美根子	S42家食	神戸市西区
	桂 美穂子	S46理生	姫路市
	高階 時子	S48文国	加東市
	丸岡 玲子	S53理数	明石市
	杉本 香織	H21博前環	姫路市
	實方 充代	S32文幼	尼崎市
	中田 秀子	S37文幼	加古川市
	山本よしみ	S33家食	神戸市西区
	瀬川 順子	S41文英	神戸市中央区
会計監査			
本部理事			
大学女性協会	大林 冷子	S33家被	尼崎市
	唐島 幸子	S43文英	芦屋市

* 「支部だより」第36号 芦屋市担当

24年1月9日(月)

支部だより引き継ぎ会(於、楠公会館)

11月20日(日)

「睦会」(於、ホテル日航姫路、昭和43年卒業生担当)

11月1日(月)

「睦会」(於、ホテル日航姫路、昭和43年卒業生担当)

8月25日(木)

「支部だより」第35号発行(西宮市担当)

5月15日(日)

支部総会(於、楠公会館)

4月2日(土)

支部役員会(於、神戸市勤労会館)

23年1月8日(土)

支部だより引き継ぎ会(於、楠公会館)

11月14日(日)

「睦会」(於、新神戸アナクラウンホテル、昭和42年卒業生担当)

11月1日(日)

「支部だより」第34号発行(尼崎市担当)

8月26日(木)

地区リーダー会(於、神戸市勤労会館)

5月8日(土)

支部総会(於、楠公会館)

平成22年4月4日(日)

支部役員会(於、神戸市勤労会館)

平成22年度事業報告

平成22年度会計報告並びに平成23年度会計予算

支出の部

科目名	平成22年度決算	平成23年度予算	
本部会費	802,500	850,000	
総会補助費	42,998	150,000	
通信費	221,260	250,000	
印刷費	24,570	30,000	
交通費	54,480	70,000	
事業費	名簿印刷費(積立)	0	
	名簿送料	0	
	支部便り印刷費	200,000	200,000
	睦会補助	50,000	50,000
	標の会	90,000	90,000
	ホームページ研究会	30,000	30,000
	地区リーダー会	42,658	70,000
もより会補助	101,200	110,000	
慶弔費	85,760	100,000	
事務費	93,927	160,000	
予備費	0	0	
小計	1,839,353	2,160,000	
次年度繰越	4,811,394	4,811,894	
合計	6,650,747	6,971,894	

資産内訳 (平成23年3月31日現在)

定額郵便貯金	2,450,000円
郵便貯金	1,213,862円
振替貯金	1,142,849円
現金	4,683円
合計	4,811,394円

収入の部

科目名	平成22年度決算	平成23年度予算
会費	2,025,800	2,100,000
内 本部会費	802,500	850,000
支 支部会費	1,223,300	1,250,000
貯金利息	9,257	500
本部より補助	76,440	60,000
雑収入	0	0
寄付	30,000	0
小計	2,141,497	2,160,500
前年度繰越	4,509,250	4,811,394
合計	6,650,747	6,971,894

編集後記

世界規模の不況、超円高、政治の混迷、そして3月11日の東日本大震災・巨大津波・福島原発放射能汚染と暗いニュースが日本を覆っています。そんな中でなでしこジャパンの世界選手権優勝と彼女たちの爽やかな振る舞いが、私たちに大きな励みとなりました。力不足のまま手探りで取り組んできました「佐保会兵庫県支部だより第35号」をお届けいたします。多くのなでしこの方の協力や激励をいただきましたお蔭です。編集委員一同厚くお礼申しあげます。

地区ごとにバトンタッチしていく支部だより編集は重荷ではありますが、一方では新しく発見や展望や人との繋がりも生みだしています。今後とも佐保会なでしこ集団が発展していきますように。

〔編集委員：那須、赤川、永吉、田中、溝端、山川〕
〔カット：那須、永吉〕